



市立札幌病院ステージアッププランの進捗状況


具体的な取組策 取組項目・内容	目標値等 【実施予定時期】	現在までの取組結果(24年4月～25年3月)	今後の取組、課題等
(1) 質の高い医療の提供			
ア 地域医療機関等との機能分化・連携推進 (ア) 各診療科の医療情報誌を作成し、当院の診療機能をPRするとともに、連携医療機関への訪問活動を強化し、信頼関係を深める。また、かかりつけ医を持つための相談体制を強化し、紹介率及び逆紹介率の向上を図る。	各診療科の医療情報誌の作成【24年度】	「市立札幌病院診療科案内」を新規作成し、連携医療機関など850の機関に配布した。また、市内35と市外6の医療機関への訪問活動、かかりつけ医相談窓口に専従看護師1名配置、開放病床の設置(5床)、患者搬送用車両の新規導入等を行った。 紹介率55.1%、逆紹介率63.7%(23年度44.4%、46.6%)。	「市立札幌病院診療科案内」は、さらに内容やレイアウトを改善し、医療系大学等にも配布する予定。 地域医療支援病院に係る承認申請を25年6月に予定。
(イ) 在宅支援や転院調整が必要な患者さんについて、関係職種から構成されるチームが入院後7日以内に退院支援計画の作成に着手する。	入院後7日以内の退院支援計画の作成着手【24年度】	退院支援計画書、退院調整に係るフローチャートを作成し、運用を開始した。 「退院調整加算」981,200円(716件)。	引き続き7日以内の計画着手を確実に行っていく。
イ 精神科医療の充実 (ア) 精神科救急・合併症医療の提供	精神科救急・合併症医療の提供【24年度】	新規患者入院割合55.5%(施設基準40%以上)、在宅移行割合67%(同40%以上)、時間外受診患者数272件(同200件以上)、医療保護入院等入院割合77.8%(同6割以上)、応急入院等受入件数33件(同30件以上)。「精神科救急・合併症入院料」算定の基準を満たしたため、25年3月に届出を行った。	25年度4月より「精神科救急・合併症入院料」算定。 措置入院等の圏域内受入率を基準以上に保っていく。
ウ 周産期医療体制の充実 (ア) マザーリング病床の設置 	マザーリング病床の設置【25年度】	設置場所の検討、改修に係る設計を行った。	9階西病棟のNICUに隣接した居室を改修。25年7月頃完成予定。
エ 外来化学療法室の拡充 (ア) 外来化学療法室の増床	8床増床し、15床とする【24年度】	11月、3階に8床とミキシングルーム設置(既存2階7床。計15床)。 「外来化学療法加算」13,291,600円(2,317件)。	利用件数の増加を図っていく。
オ 専門性の高いチーム医療の推進 (ア) 栄養サポートチームの対象病棟を4病棟から6病棟まで段階的に拡大し、栄養療法の推進を図る。	栄養サポートチームの対象病棟拡大【24年度、26年度】	8月対象病棟を1つ増やした(計5病棟)。 介入件数387。「栄養サポートチーム加算」720,000円。	チームについて引き続き院内周知を図っていくとともに、26年度の拡大対象病棟や専任取得研修の計画的受講等について検討する。

具体的な取組策 取組項目・内容	目標値等 【実施予定時期】	現在までの取組結果(24年4月～25年3月)	今後の取組、課題等
(イ) がん患者さんに対して、治療の早期の段階からの緩和ケア受診を促し、罹患・治療に伴う全人的苦痛の緩和を図る。	がん患者さんに対する早期の緩和ケア介入【24年度】	がん治療科に外来化学療法中の患者の緩和ケア内科外来への早めの紹介を依頼した。また、緩和ケアに関する講演会(11月)、報告会(25年3月)を開催した。 「外来緩和ケア管理料」510,000円(170件)。	緩和ケアのメリットをまとめた患者さん向けの資料を作成する。
(ウ) 入院時の持参薬の確認や患者さんに対するハイリスク薬等を投与する前の詳細な説明など、病棟における薬剤師の業務範囲を拡大する。	病棟における薬剤師業務の拡大【25年度】	3名を3病棟6診療科の薬剤管理指導業務にあてた。	25年度5名を増員し、対象を5病棟拡大する。26年度4名を増員して、「病棟薬剤業務実施加算」予定。
(エ) 周術期の患者さんや、放射線治療、化学療法を実施する患者さんに対して、歯科医師による包括的な口腔機能の管理を行う。	周術期等における包括的な口腔機能の管理【24年度】	「周術期口腔機能計画策定料」1,254,000円(418件)。 「周術期口腔機能管理料」3,521,000円(1,192件)。	介入する診療科の拡大を図っていく。
(オ) 通院中の糖尿病の半数に上ると予想される腎症2期以上の患者さんに対して、糖尿病療養指導士を中心としたチームによる療養指導により、末期腎不全への進行の阻止を図る。	チームによる糖尿病透析予防指導の実施【24年度】	7月から指導を開始。 指導件数99。「糖尿病透析予防指導管理料」273,000円。	利用件数の増加を図っていく。
カ 医師、看護師の勤務環境改善 (ア) 医療秘書及び看護補助員の増員	【24～26年度随時】	24年4月までに看護補助員を計28名増員した。6月より「75対1急性期看護補助体制加算」(増収額約85百万円)。さらに25年2月に5名増員した。 25年4月までに医療秘書を5名増員した。	看護補助員を25年4月25名増員。6月より「50対1急性期看護補助体制加算」予定。 25年4月より「40対1医師事務作業補助体制加算」(3月まで50対1)。
(2) 経営基盤の強化			
ア ジェネリック医薬品への移行 (ア) 個々の薬品の信頼性等を十分に検証の上、50品目をジェネリック医薬品へ移行	ジェネリック医薬品への移行【毎年度実施】	25年3月調剤薬(内服・外用)を中心に21品目の切り替えを決定した。 24年2月に切り替えた18品目の24年度効果額約14百万円(薬価ベース)	引き続き先発品と後発品の適応、安定供給等について検討し、切り替えを行っていく。
イ 医療情報部門の強化 (ア) 医療情報部門の設置	医療情報部門の設置【24年度】	医療情報管理担当課を設置した。	各部門への情報提供や、経営支援・提案の役割の強化していく。
ウ 専門性の高い病院事務職員の確保・育成 (ア) 職員の病院独自採用等	職員の病院独自採用【24年度2名、26年度2名】	診療情報管理士の資格を有し、かつ3年以上の病院事務経験を有する者2名を採用した(25年1月)。	様々な事務を経験させ、育成していく。また、26年度採用の職員の選考を25年7～8月に行う予定。



具体的な取組策 取組項目・内容	目標値等 【実施予定時期】	現在までの取組結果(24年4月～25年3月)	今後の取組、課題等
エ 地域医療機関等との機能分化・連携推進【再掲】 (ア) 「地域医療支援病院入院診療加算」を算定する。	「地域医療支援病院入院診療加算」の算定【25年度】	(1)ア 地域医療機関等との機能分化・連携推進 参照	-
オ 精神科医療の充実【再掲】 (ア) 「精神科・救急合併症入院料」を算定する。	「精神科・救急合併症入院料」の算定【25年度】	(1)イ 精神科医療の充実 参照	-
カ 専門性の高いチーム医療の推進【再掲】 (ア) 「栄養サポートチーム加算」の増収を図る。	「栄養サポートチーム加算」の増収【24年度、26年度】	(1)オ 専門性の高いチーム医療の推進(ア) 参照	-
(イ) 24年度の診療報酬改定で新設された「外来緩和ケア管理料」を算定する。	「外来緩和ケア管理料」の算定【24年度】	(1)オ 専門性の高いチーム医療の推進(イ) 参照	
(ウ) 24年度の診療報酬改定で新設された「病棟薬剤業務実施加算」を算定する。	「病棟薬剤業務実施加算」の算定【25年度】	(1)オ 専門性の高いチーム医療の推進(ウ) 参照	-
(エ) 24年度の診療報酬改定で新設された「周術期口腔機能管理料」を算定する。	「周術期口腔機能管理料」の算定【24年度】	(1)オ 専門性の高いチーム医療の推進(エ) 参照	
(オ) 24年度の診療報酬改定で新設された「糖尿病透析予防指導管理料」を算定する。	「糖尿病透析予防指導管理料」の算定【24年度】	(1)オ 専門性の高いチーム医療の推進(オ) 参照	-
キ 医師、看護師の勤務環境改善【再掲】 (ア) 「40対1医師事務作業補助体制加算」を算定する。	「40対1医師事務作業補助体制加算」の算定【25年度】	(1)カ 医師、看護師の勤務環境改善 参照	-
(イ) 「急性期看護補助体制加算」を算定する。	「75対1急性期看護補助体制加算」の算定【24年度】 「50対1急性期看護補助体制加算」の算定【26年度】	(1)カ 医師、看護師の勤務環境改善 参照	

具体的な取組策 取組項目・内容	目標値等 【実施予定時期】	現在までの取組結果(24年4月～25年3月)	今後の取組、課題等
(3) 計画的な施設、設備、高度医療機器の整備			
ア 病院施設、設備の改修・更新 (ア) 総合的、中・長期的視点から施設管理を行いながら、耐用年数を経過した設備の更新など、建物全般の修繕を計画的に進める。	建物全般の修繕【毎年度実施】	更新工事を実施したもの：外来棟屋上の冷却塔機器、中央監視装置(セービック)機器、電話交換設備、外来呼出装置など 更新工事の実施設計を行ったもの：冷却塔機器、ヒートポンプユニット、送風機設備、駐車場設備、屋上防水改修	更新工事を実施するもの：ヒートポンプユニット、送風機設備、駐車場設備、屋上防水改修など
(イ) 近い将来には、病棟や厨房などの大規模改修工事が必要であることから、当院の診療業務への影響を最小限にする改修手法を検討する。また、医療制度改革等を踏まえた当院の方向性を見定めて、新たな病院機能の充実や病床再編などについて併せて調査、検討する。	大規模改修手法の検討【26年度まで】 新たな病院機能の充実や病床再編などの調査・検討【26年度まで】	施設大規模修繕の部内検討会議を実施した。 	改修手法による診療業務への影響等の調査を実施する。 新たな病院機能の充実や病床再編などについて、調査や医療職を含めた検討を行っていく。
イ 災害に強い電気設備等の設置 (ア) 受変電設備や非常用発電設備の整備を行う。	受変電設備等の設置【26年度】	基本実施設計を行った(受変電設備は特別高圧66,000V化、非常用発電設備は平常時の電力を全館全設備に約72時間供給可能)。	25年7月より機器製作等着手、26年度中に竣工予定。
(イ) 非常用井戸を増設する。	非常用井戸の増設【26年度】	-	26年度に設計及び工事を行う。
ウ 総合医療情報システムの更新 (ア) 既存システムの運用状況を評価し、その結果を反映させながら、電子カルテシステムを中心とした総合医療情報システムを更新する。	総合医療情報システムの更新【26年度】	34の作業部会を新設し、集中検討事項を設定し、要求仕様書の作成を行った。	業務フローの確認と利用環境に適した院内のセキュリティポリシーの検討を進める。
エ 高度医療機器の更新・整備 (ア) 耐用年数や医療技術水準の動向を踏まえて、計画的に高度医療機器を更新する。	高度医療機器の更新・整備【毎年度実施】	放射線治療システム、NICUモニタリングシステム、手術台等計119件の更新・整備を行った。	25年度は血管造影X線診断装置、一般X線撮影装置、手術顕微鏡などを更新する予定。

具体的な取組策 取組項目・内容	目標値等 【実施予定時期】	現在までの取組結果(24年4月～25年3月)	今後の取組、課題等
(4) 患者サービスの向上			
ア 患者さんの意見・要望を踏まえたサービスの向上 (ア) 患者満足度調査や待ち時間調査の実施、ご意見箱などにより、患者さんの意見・要望を把握・分析し、改善に努める。	患者満足度調査【毎年 度実施】	患者満足度調査を9月に実施。総合評価では、外来で84.5%、入院で90%の方が満足と回答している。 外来待ち時間調査を5月に実施。診察(予約あり、予約なし)、会計(自動支払機、窓口)、X線検査それぞれにおいて初診の場合及び再診の場合の待ち時間を調査。 「ご意見箱」の投書をもとに、予約相談コーナーの時間外音声案内の開始、外来男子用トイレにファイル置き場の設置等を行った。	患者さんや家族への説明や外来待ち時間のアナウンス等の改善に向けて取り組む。 25年6月外来待ち時間調査、9月患者満足度調査実施予定。 「ご意見箱」に寄せられた意見については、随時検討していく。
イ 患者アメニティの向上 (ア) 喫茶コーナーの設置	 喫茶コーナーの設置 【24年度】	5月タリーズコーヒー開店。 25年2月院内コンビニエンスストアの運営事業者決定。	ファミリーマート25年4月開店。
ウ 院内情報の提供 (ア) 院内にディスプレイを設置し、映像を通して施設案内や交通アクセス、院内の催しなど、医療や当院に関する情報を効果的に提供する。	ディスプレイの設置【25 年度】	-	25年度中に1階ロビーにディスプレイ設置予定。また、効果的なコンテンツの検討及び制作を行う。
エ わかりやすい案内表示・掲示 (ア) 案内表示(サイン)や掲示物について、設置場所や説明内容などを改善する。	わかりやすい案内表示・掲示【24～26年度随 時】	救命救急センター待合スペースの公衆電話に対する表示を、中央エレベーターホールに2か所貼付した。また、1階来院者トイレ、1～3階の外来ゾーンの表示を更新した。	随時改善を図っていく。

経営指標に係る数値目標に対する実績(見込)について

目標を達成しているもの： 、概ね目標を達成しているもの(目標値の概ね9割程度達成)： 、左記以外：×

(1) 財務内容の改善に係る数値目標

項目	指標	24年度目標	実績(見込)	達成状況	備考
経営効率化	新入院患者数 1)	14,500人	14,256人		紹介率は上昇しているが、新規入院となる患者が少なかったため。
	病床利用率 1)	81.3%	76.0%		新入院患者数の減と平均在院日数の短縮により、延入院患者数が少なくなったため。
経常収支の黒字維持	経常収支比率	100.8%	100.8%		
	職員給与費対医業収益比率	49.9%	52.9%		予算より人件費は減少したが、医業収益も減少したため。
	材料費対医業収益比率	29.9%	29.5%		
単年度資金収支の黒字確保	単年度資金収支	225百万円	192百万円		
一般会計繰入金の縮減	繰入金対経常収益比率	8.8%	9.7%		一般会計繰入金は減少したが、経常収益も減少したため。

注：1) 救命救急センター及び精神医療センターを除く。

(2) 医療機能の確保に係る数値目標

項目	指標	24年度目標	実績(見込)	達成状況	備考
地域医療機関との機能分化・連携推進	紹介率	50%	55.1%		
	逆紹介率	60%	63.7%		
政策医療の提供	救急患者受入数(3次)	1,150件	1,161件		
	措置入院、緊急入院及び応急入院の受入数	30件	33件		
がん治療の質の確保・向上	外来化学療法件数	2,200件	2,317件		
高度で専門的な医療の提供	栄養サポートチームの介入件数	407件	387件		介入対象となる患者が少なかったため。
	緩和ケア内科外来新規患者数	25人	27人		
	周術期口腔機能管理計画策定件数	170件	418件		
医療従事者の育成	臨床研修医受入数(後期研修医を含む)	50人	49人		(1名採用辞退)
	看護補助員数(委託を含み、常勤換算)	54人	60.5人		
患者サービスの向上	入院患者満足度 1)	89.0%	90.0%		
	外来患者満足度 1)	83.6%	84.5%		

注:1) 患者満足度調査の総合評価における「満足」、「ほぼ満足」の割合